

活動紹介

江津湖の魚類調査

私たちが生きていくうえで「生物多様性」の豊かさが重要であることは広く世界に知られるところであり、1992年に生物多様性条約が採択されました。それを受けて日本も生物多様性国家戦略を、熊本県と熊本市は生物多様性地域戦略を策定しました。市の戦略では、江津湖を重要視すべき場所と位置づけており、特に水草と魚類について外来種対策を実施することが明記されています。そのようなわけで、熊本市では博物館と環境政策課とで外来魚の駆除を含む魚類調査をしています。そこで活躍するのが「電気ショッカー船」です。舳先から2本の電極を下げ、気絶した魚が数秒後に復活する程度の電気を流しながら船を走らせます。いろいろな魚が見られる点では楽しいのですが、多数同時に沈みゆく魚の種を判別しながら数えるのはなかなか大変です。そして精神的に大変なのが外来種の「駆除」。在来生態系に害を及ぼしはしますが、人間の都合で持ち込まれた罪のない生きものの命を奪うことは、やはり気分の良いものではありません。あらたな外来種を生み出さない世の中になることを願いつつ、魚類調査に励んでいます。

(動物:清水)



ショッカー船調査の様子



駆除された外来魚

活動紹介

4館連携スタンプラリー(収蔵品展関連イベント)

(当館実施期間:2024年10月4日~2025年2月2日)

収蔵品展『くまはくコレクション かがやけ!熊本の刀と絵画』にあわせ、同時期に同田貫の刀剣展示があった島田美術館・玉名市立歴史博物館ころろピア・島原城と連携して、4館をめぐるスタンプラリー「肥後島原同田貫道中ー海を貫く軌跡ー」を初めて開催しました。SNSでの拡散効果もあり、全国の同田貫ファンの皆さんにご参加いただきました。

スタンプカードに印刷された刀の茎部分に、刀工銘のスタンプを押印するアイデア(玉名発)は大好評でした。スタンプ収集に加えて、各館オリジナル記念カードも限定配布し、4館分が揃うと裏側が1枚の絵になります。刀剣展示が各館の常設展示や各地域の景色・食べ物を楽しんでもいただくきっかけとなったなら嬉しいです。

車や船を利用しなければならぬ大変な行程だったと思いますが、挑戦いただきありがとうございました。シニア層・ファミリー層への周知方法など、今回見えた課題をふまえ、今後も楽しい企画を実現できればと思います。

(美術工芸:竹原)



スタンプカードと記念カード



島原で食べた具雑煮

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはくNEWS LETTER Vol.14
発行 熊本博物館
〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2
TEL. 096-324-3500 FAX.096-351-4257
kumamoto-city-museum.jp



くまはく NEWS LETTER

Vol.14

2025 7/12 土 → 8/31 日

夏季特別展

江戸の遊び絵づくし

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

2025年6月

■ 特別展案内

夏季特別展「江戸の遊び絵づくし
粋でゆかいな浮世絵ワールド」

■ 共催展報告

共催展「熊本市遺跡発掘速報展 2024」

■ 通年講座報告

古文書講座 保存科学講座

■ イベント報告

天文講演会
くまはく誕生月間

■ 活動紹介

江津湖の魚類調査
4館連携スタンプラリー(収蔵品展関連イベント)

① 関斎「張子尽し」 ② 二代 歌川国盛「さかなのはんじもの 上・中・下」 ③ 歌川芳虎「子供遊道化奉合」
④ 歌川芳藤「しん板 手あそびづくし」 ⑤ 歌川芳藤「小猫寄り集まって大猫になる」
⑥ 歌川国芳「両面相 伊久 げどふ だるま とくさかり」 ⑦ 歌川国芳「国芳もやう正札附現金男 野晒借助」
⑧ 歌川国芳「其ま・地口猫飼好五十三疋」 全て部分

特別展案内

夏季特別展 「江戸の遊び絵づくし
粋でゆかいな浮世絵ワールド」

2025年7月12日(土)～8月31日(日)

町人文化が大きく花開いた江戸時代、浮世絵は世間で大人気を博しました。

美人画、役者絵、名所絵といった浮世絵はよく知られるところですが、江戸の「遊び心」はそれだけにとどまりません。この展覧会では江戸庶民が楽しんだ、ユーモアやアイディアにあふれた「遊び絵」の世界を取り上げます。視覚のマジック、謎解き、影絵、隠し絵など、当時の人びとが親しんだ遊び絵はバリエーション豊か。この「江戸の遊び絵づくし」展は九州初開催にして、熊本博物館が最終開催地となります。会期中は浮世絵の仕掛け人・蔦屋重三郎が手掛けた「吉原細見」のほか、熊本博物館所蔵の浮世絵コレクションも特別公開します。

(歴史：木山)



共催展報告

共催展 「熊本市遺跡発掘速報展2024」

2025年1月11日(土)～3月9日(日)

本市文化財課との共催展「遺跡発掘速報展」を2025年1月11日(土)から3月9日(日)で開催しました。本市が近年行った発掘調査での新発見や、出土品整理調査の最新成果など、埋蔵文化財調査の最前線について、出土品や写真パネル展示で解説しました。同時に、当館収蔵の考古資料の蔵出しとして、山崎正董氏古瓦コレクションの中から整理済とする資料群を体系的に展示、当館保管の考古資料を市民の皆様にご紹介しました。

(考古：下高)



通年講座報告

令和6年度は古文書講座、植物学講座、くまはくゆるゆる美術部、地質学講座、保存科学講座の5つの通年講座を行いました。その中から、今回は「古文書講座」「保存科学講座」についてご紹介します。

古文書講座

「古文書講座(実践編)」と銘打ち、リニューアルオープン後では初めてとなる古文書講座を開催しました。講座は5月から3月まで隔月で実施し、全6回。当館所蔵の細川刑部家家臣「先祖附」をテキストに選んだのですが、バラエティ豊かな各家の来歴には受講生のみなさんも驚かれたことと思います。令和7年度も講座を継続する予定です。



(歴史：木山)

保存科学講座

本講座では、展示されるまでの保存処理の裏側や、お家でもできる保存環境の整備方法など文化財の保存にまつわる内容を年6回にわけてご紹介しています。永く保存するためのチェックポイントや紙資料の補修など実物を見ながら、実際に体験してもらった内容にしました。

講座を通して、文化財の劣化について考えていただく良い機会になったのではないかと思います。



(保存科学：坂本)

イベント報告

『ブラック星博士の九州征服計画
inくまもと&明石市立天文科学館・井上館長による楽しい星空解説』

2025年1月18日(土)

プラネタリウムでは、親子で楽しめるダジャレ連発の楽しい特別放映を実施しました。明石市立天文科学館の井上毅館長をお招きして、冬の星空解説や最新の天文現象など、井上館長のわかりやすい解説に子供たちから次々と声があがるなど会場はとても盛り上がりしました。明石市立天文科学館は日本標準時子午線が通る“時の科学館”でもあります。そんな明石で大人気のヒーロー『シゴセンジャー』の紹介動画が流れると、宿敵『ブラック星博士』が登場！プラネタリウムをのっとなるぞ！と会場の子供たちとクイズで戦うことに。ブラック星博士のダジャレ連発のクイズで大爆笑の中、無事に全問正解☆ブラック星博士からプラネタリウムを守ることができました。

熊本初上陸となったブラック星博士は「次こそは熊本の子供たちに勝つ！」とリベンジを誓っていました。さむーいダジャレをひっさげた再登場を楽しみにしています。

(プラネタリウム：宮本)



くまはく誕生月間

昭和27年(1952年)2月に熊本博物館が開館したことを記念し、2月に「くまはく誕生月間」と題して、多くのイベントを開催しました。その中から2つのイベントをご紹介します。

いきものクイズ

展示室に散りばめられたクイズを探して答えたら、最後はオナモミダーツに挑戦！今回は生物×美術工芸分野でコラボし、動物や植物のちょっとしたヒミツを知ることができるクイズラリーを行いました。気合いを入れてクイズを作った結果、こどもたちからは「クイズが難しかったー！」という声が多数あがっていましたが、プレゼントもゲットしつつ楽しみながら学んでいただけたようです。次回はどんな難問にしようか…さらにパワーアップした内容を計画中です。

(植物：山口)

2025年2月11日(火・祝)



糸が回る！目が回る？！フー、シュルシュル！

2025年2月24日(月・振)

写真のようにストローをくわえて「フー」っと息を吹き込めば、紙コップの中央に通した『糸の輪』が「シュルシュル…」と回り出す科学工作。目には見えない空気の粘性や狭い管の中を通る空気の動き(速さの変化)を学ぶべく、2月24日(月・振)の午前と午後に1回ずつ、合わせて58名の親子が製作・体験に挑戦。息を長く吹き続けると「酸欠で目が回るかもね～(?)」という補足説明をお忘れなく！

(理工：山口均)

